

第1回 正しい測定方法を正しく広める

職業能力の再開発を指すリスクリソース。「実践! リスクリソース」では、担当記者がスキルの習得に挑む。今回から新シリーズとなる。測定機器大手のミツトヨ(川崎市高津区、沼田恵明社長)は、測定の基礎知識や測定工具(※1)の使い方などを学ぶ「ミツトヨ計測学院」を開催している。その中で、「測定工具取扱いの基礎と定期検査」コースを受講した。私、ノギスのバーニヤ(※2)の読み取り方も知らないけど…大丈夫? (担当:西塚将喜)

※1

ミツトヨではノギスやマイクロメーター、ハイドゲージ、ダイヤルゲージなどを測定工具としている。

※2

ノギスのスライダー部分に記載された目盛り。副尺とも。1mm単位で記載された本尺と組み合わせて使う。150mmのノギスの場合は0.05mmまで読み取れるものが一般的。



今年度に就任した横山幸枝学院長

今年5月に50周年

ミツトヨ計測学院は今年5月に50周年を迎えた。当初はミツトヨの社内教育を目的に開設したが、学生や販売を手掛ける代理店などにまで段々と対象を広げてきた。今は国内ユーザーをメインに各種セミナーを提供している。これまでの受講者は30万人以上で、現在はミツトヨの本社や営業所など国内8

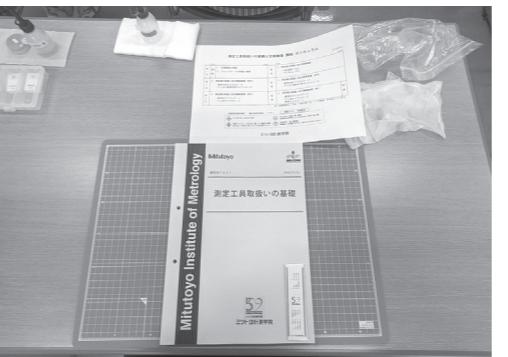
会場で開催する。

提供される講座は「測定工具の取扱いと検査」「計測機器類の精度検査」「計測理論と実務」「技能検定受検対策」の4カテゴリーで全19種類ある。その中でも、特にノギスやマイクロメーターなどの測定工具に関する講座が受講生全体の約7割を占めている。

今年度から就任した横山幸枝学院長は「受講生の傾向からも、生産現場での迅速な測定に測定工具が不可欠と感じる。機器がいくら高精度でも、使い方や管理方法を誤ると正確な数値を測れない。正しい使い方を世に広め、顧客の品質管理やスキルアップに貢献したい」と話す。

触れたことすらない私が…

今回はミツトヨ本社で開催される「測定工具取扱いの基礎と定期検査／3日コース」を受講した。測定工具の使



必要な物品は貸してもらえる

用方法を実習で学ぶ。それだけでなく、ブロックゲージなどの基準器を使った測定工具の定期検査の手順も教わる。日本産業規格(JIS、※3)に沿った検査手順で、各種測定工具の精度の狂いが基準値以内かどうかを判定していく本格的な講習だ。

その内容を目にした瞬間、安直に申し込んでしまったことに、少し後悔の念が浮かんだ。取材時にノギスやマイクロメーターなどを生産現場で見たことはあるが、使うどころか実際に手にしたこともない。ましてやノギスのバーニヤなんて、読み取り方も分からぬ。

そんな私が、いきなり定期検査の方法まで習って理解できるなんて、思えなかつたのだ。

講習前に横山学院長に、その不安を吐露すると「使い方から講習するので、心配はいりません。検査を学ぶことで測定工具の構造に詳しくなれますよ」と励まされた。

まずはブロックゲージから

実際に講習が始まった。

講習室は、両脇に測定工具や検査用の装置が並び、学校の理科室のような雰囲気だった。

今回は、私も含めて17人が受講する。生産現場の機械オペレーターや品質管理の実務者から中小製造業の経営者まで幅広い。ただ、測定工具を



理科室のような空間で、講習が始まる

触ったことすらないのは、おそらく私一人だろう。

「理解が及ばず、講習を長引かせるなどはもっての外。せめて、足を引っ張らないようにしなくては」と決意を新たにした。

講習はプレゼンテーションで座学を受け、実習をする流れで進む。プレゼンテーション資料をまとめたテキスト本が提供され、必要な機器や物品は全て貸してもらえる。測定工具などの洗浄に使う有機溶剤で危険物の「ヘプタン」を扱うので、保護メガネやゴム手袋なども貸与される。

不安を抱きつつ、でも測定工具に本格的に触れるので楽しみも持ちつつ、講習が始まった。「最初はノギス? マイクロメーター?」などと思っていると、講師に言われた。

「まずはブロックゲージの扱い方からです」

事前に全く想定もしない部分から、講習が始まった。

西塚 将喜 (にしづか・まさのぶ)

大学卒業後、スポーツデータの分析企業に入社。国内プロ野球や社会人野球、米国大リーグのデータ収集と分析、それを基にした記事作成に携わる。データを扱うプログラミング言語「SQL」の知識を身に付けた。2018年ニュースダイジェスト社に入社。24年ファクトリーサイエンティストに認定、戦略MGを受講。1991年青森県生まれの34歳。

今回の受講者